

展覧会の見どころ

○田中敦子《電気服》が展示されます！

前衛芸術グループ「具体」を代表する作家・田中敦子の創作の原点であり代表作でもある《電気服》。約200のカラフルな電球がまばゆく高速で点滅し、「光」と「熱」で見る者を魅了します。これまで22回国内外の展覧会に出品され(うち半分は海外)、高松市美術館いちばんの「人気」作品でもあります。今回は《電気服》をリスペクトしてやまない美術家・鬼頭健吾が自作と《電気服》など田中敦子の作品とコラボレーションに挑みます。



左 田中敦子《電気服》1956 / 86年 高松市美術館蔵 撮影:加藤成文 ©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
右 鬼頭健吾《Interstellar》2016 写真:大河原光

○現代アートの技法のヒミツに迫ります！

現代アートの技法は実に多様です。既成概念を破る様々な技法は未知の表現を生み、見る者をいつも驚かせ、楽しませてくれます。今回の展覧会では、完成した作品を見ただけでは知ることのできない、作者ならではの技法の秘密を、【道具類の展示】【作者のこぼれ】【制作過程のスライドショー】などにより立体的に解き明かします。また4月20日には鬼頭健吾、4月27～30日にはO JUNの公開制作が行われ、技法の秘密を間近に目にする事ができます。



O JUN 撮影:木暮伸也



鬼頭健吾 撮影:木暮伸也



田淵太郎

○連携企画 第1期常設展

同時期開催の1期常設展(2019年4月9日(火)～6月23日(日))でも技法の秘密に迫ります。「ギホウの秘密/版画編」では当館の外国版画コレクションとゲスト作家・筆塚稔尚による作品を用いて銅版画、シルクスクリーン、木版画など版画技法をわかりやすく解説。「ギホウのヒミツ/漆芸編」では、香川県立高松工芸高校生が生み出したキャラクター「漆のようせい」たちの案内により、讃岐漆芸のユニークな技法を楽しく紹介します。